

植 物 園 北 遺 跡

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 二〇一八―一

植物園北遺跡

2019年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

植 物 園 北 遺 跡

2019年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

序 文

京都市内には、いにしへの都平安京をはじめとして、数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が点在しています。平安京以前にさかのぼる遺跡及び平安京建都以来、今日に至るまで営々と生活が営まれ、各時代の生活跡が連綿と重なりあっています。このように地中に埋もれた埋蔵文化財（遺跡）は、過去の京都の姿をうかびあがらせてくれます。

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、遺跡の発掘調査をとおして京都の歴史の解明に取り組んでいます。その調査成果を市民の皆様に広く公開し、活用していただけるよう努めていくことが責務と考えています。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市考古資料館での展示公開、小中学校での出前授業、ホームページでの情報公開などを積極的に進めているところです。

このたび、共同住宅新築工事に伴う植物園北遺跡の発掘調査について調査成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示賜りますようお願い申し上げます。

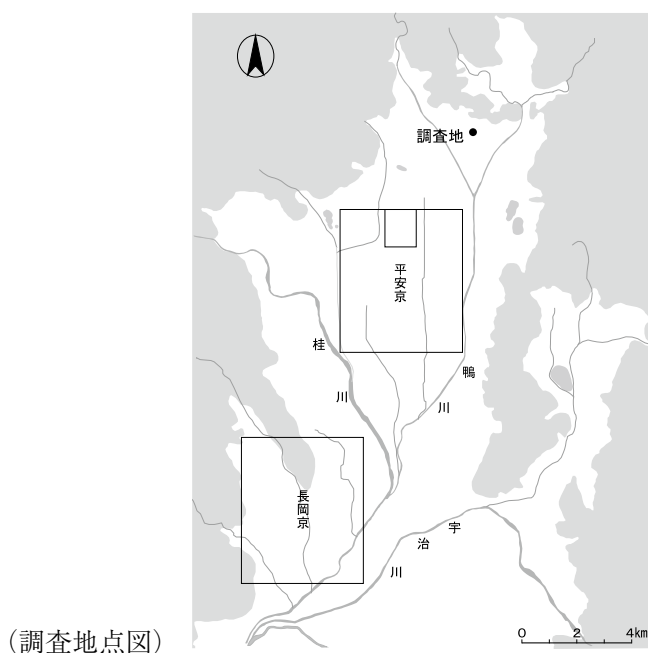
末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援を賜りました多くの関係各位に厚く感謝し、御礼を申し上げます。

令和元年5月

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所
所 長 井 上 満 郎

例 言

- 1 遺 跡 名 植物園北遺跡（京都市番号 18 S 272）
- 2 調査所在地 京都市左京区下鴨南芝町30-1・30-2
- 3 委 託 者 嶋本伸雄、木村信子
- 4 調査期間 2018年11月5日～2018年12月7日
- 5 調査面積 約197㎡（2区：95㎡、3区：96㎡、拡張区：約6㎡）
- 6 調査担当者 布川豊治
- 7 使用地図 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「西賀茂」・「幡枝」・「鷹峰」・「植物園」を参考にし、作成した。
- 8 使用測地系 世界測地系 平面直角座標系Ⅵ（ただし、単位（m）を省略した）
- 9 使用標高 T.P.：東京湾平均海面高度
- 10 使用土色名 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。
- 11 遺構番号 2区は1から、3区は21から通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。
- 12 遺物番号 通し番号を付し、写真番号も同一とした。
- 13 本書作成 布川豊治
- 14 備 考 上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、調査業務職員及び資料業務職員があたった。



目 次

1. 調査経過	1
(1) 調査に至る経緯	1
(2) 調査の経過	1
2. 位置と環境	3
(1) 歴史的環境と立地	3
(2) 周辺の調査	3
3. 遺 構	7
(1) 基本層序	7
(2) 遺構の概要	7
(3) 2区の遺構	7
(4) 3区の遺構	7
4. 遺 物	13
(1) 遺物の概要	13
(2) 土器類	13
(3) 石製品	13
5. ま と め	14

図 版 目 次

図版1	遺構	1	2区全景（東から）
		2	3区全景（西から）
図版2	遺構	1	掘立柱建物2全景（南西から）
		2	掘立柱建物2 柱穴22土器出土状況（北から）
		3	掘立柱建物2 柱穴26断面（南東から）

挿 図 目 次

図1	調査位置図（1：5,000）	1
図2	調査区配置図（1：500）	2
図3	調査前全景（南西から）	2
図4	作業風景（北西から）	2
図5	周辺調査位置図（1：10,000）	4
図6	遺構全体平面図（1：200）	8
図7	2区実測図（1：100）	9
図8	3区実測図（1：100）	10
図9	掘立柱建物2実測図（1：60）	11
図10	掘立柱建物2出土遺物実測図（1：4、1：1）	13
図11	石鍬	13
図12	周辺検出遺構図（1：2,500）	14

表 目 次

表1	周辺調査一覧表	5
表2	文献一覧表	6
表3	遺構概要表	7
表4	遺物概要表	13

植物園北遺跡

1. 調査経過

(1) 調査に至る経緯

本調査は共同住宅新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査である。調査地は京都市左京区の北山通と下鴨本通交差点の北西側に所在する。当地は植物園北遺跡内に位置し、遺構の存在が想定されることから、工事に先立ち京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下「京都市保護課」という。）が試掘調査を実施したところ、堅穴建物と思われる遺構などを確認したため、発掘調査を実施することとなった。

(2) 調査の経過

調査区は京都市保護課の指導により3箇所に分け、文化庁の国庫補助を得て京都市保護課が1区を調査し、原因者から委託をうけて公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所が2・3区を調査した。1区は敷地東側に位置し、南北約10m、東西約11mの北東隅を欠く方形である。2区は敷地西側に位置し、南北約10m、東西約9.5mの方形である。3区は敷地中央南東寄りに設定予定で



図1 調査位置図 (1 : 5,000)

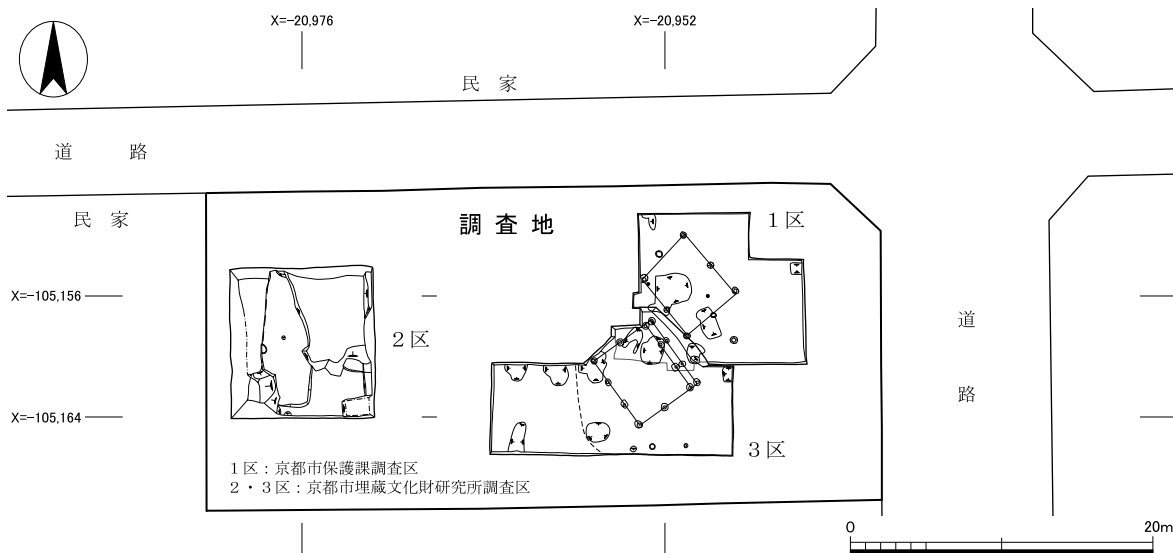


図2 調査区配置図 (1 : 500)



図3 調査前全景 (南西から)



図4 作業風景 (北西から)

あったが、1区南端で建物を検出したため、京都市保護課の指導を受け、建物全体を検出するために調査区設定を北へ移動し、1区に接する南北約6m、東西約16mの方形の調査区を設定した。さらに調査中に建物の北西部が調査区外に続く事が明らかとなったため、北部を拡張した。

調査は京都市保護課調査の1区と並行して2区から実施した。調査開始日の11月5日は1区重機掘削と並行して器材搬入を行った。6日には重機掘削により表土層と耕作土層を除去し、手作業による調査を開始した。排土は場内に仮置きした。調査では想定された竪穴建物は存在しなかったが、土坑など少数の遺構を検出した。2区の調査終了後、3区は調査区設定の都合上、京都市保護課1区の調査終了を待ち、11月21日に重機掘削から開始し、翌日より手作業による調査となった。遺構面は表土層と耕作土層の下で検出した1面である。遺構は柱穴、土坑、掘立柱建物を検出した。その後、写真撮影、図面作成、埋め戻し、器材搬出などを終え、12月7日に調査を終了し、現場の引き渡しを終えた。なお、調査中は適宜、京都市保護課の臨検・指導を受けた。

註

- 1) 清水早織・熊井亮介「植物園北遺跡」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成30年度』京都市文化市民局 2019年

2. 位置と環境

(1) 歴史的環境と立地

調査地は京都盆地北東部の北端にあたり、賀茂川と高野川合流点から北に広がる逆三角形の平地に位置する。この辺り一帯は、賀茂川が北山山間部から平野部へ流れ出て形成した扇状地である。

この地域で公共下水道敷設工事が計画され、これに伴う立会調査と試掘調査（調査1）が1979年から1981年にわたり実施された。その範囲は、東西が賀茂川から東へ松ヶ崎付近まで、南北は北山通から北へ山裾あたりまでの一帯である。その結果、縄文時代から室町時代までの遺構が検出され、中でも弥生時代後期から古墳時代にかけての大規模な集落跡が明らかとなり、「植物園北遺跡」と名付けられた。この遺跡の範囲は、西が賀茂川左岸あたりまで、北西端は上賀茂神社、北は神宮寺山・本山・西山に接し、東は松ヶ崎通付近まで、南は京都府立植物園から京都府立大学あたりまでの東西約2.1km、南北約1.4kmの広がりをもつ。調査地はその植物園北遺跡の南東部に位置する。

(2) 周辺の調査（図5、表1・2）

植物園北遺跡の存在が周知されて以降、2018年までに数多くの調査が実施されている。それらの主なものを、周辺調査位置図（図5）、周辺調査一覧表（表1）、文献一覧表（表2）として掲載した。周辺調査位置図内の印と番号は位置と調査番号を示し、表の文献は番号を付した。

今回の調査地近隣での主な発掘調査には、調査10・12・19・21・22・26がある。調査10・12は京都ノートルダム女子大学内の調査である。主な検出遺構は古墳時代前期の竪穴建物21棟、後期の竪穴建物が6棟、後期の掘立柱建物が1棟などである。その他にも奈良時代の掘立柱建物などが見つかっている。調査19は調査地から東へ約100mに位置する北山ふれあいセンター建設時の調査である。主な検出遺構は弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴建物9棟、土坑、ピット群などである。調査地から北へ約120mに位置する調査21は京都府公舎の整備工事に伴う調査である。主な検出遺構は弥生時代終末期から古墳時代初頭の竪穴建物4棟と集石遺構2基、古墳時代前期の竪穴建物2棟と土坑6基である。調査地から北へ約170mに位置する調査22も京都府公舎整備工事に伴う調査である。主な検出遺構は弥生時代後期中頃から後半の竪穴建物1棟、弥生時代後期から古墳時代前期の土坑6基、弥生時代後期末から古墳時代初頭の竪穴建物2棟、古墳時代初頭の集石遺構、古墳時代前期の竪穴建物2棟、平安時代後期の掘立柱建物2棟である。

以上の様に調査地の周囲では、弥生時代後期から古墳時代の竪穴建物や奈良時代から平安時代の掘立柱建物が多く見つかっている。このことから調査地周辺では、弥生時代から平安時代まで各時代に集落が営まれていたと考えられる。

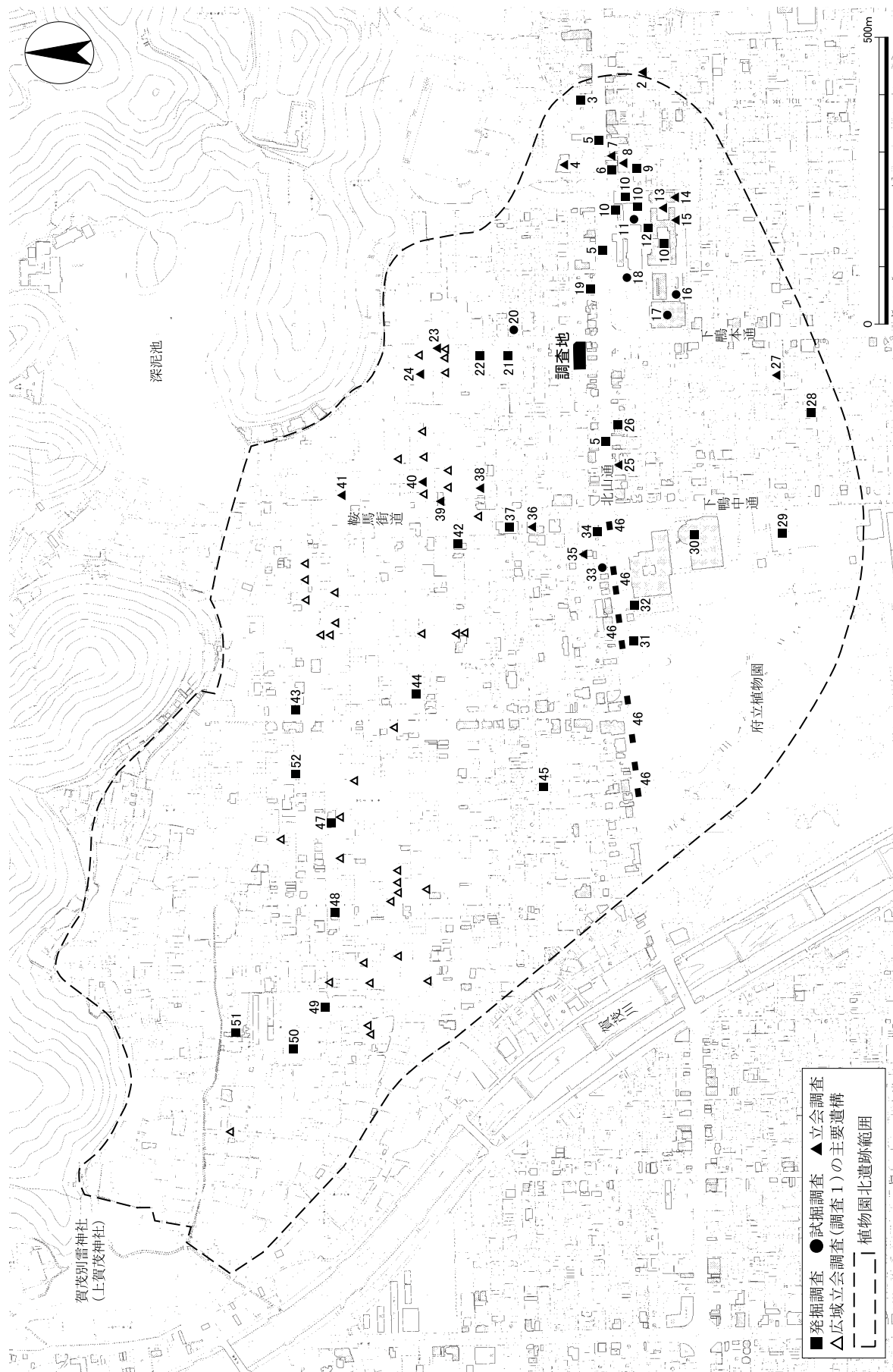


図5 周辺調査位置図 (1 : 10,000)

表1 周辺調査一覧表

調査番号	調査年	方法	縄文時代	弥生時代	古墳～(飛鳥)時代	奈良～平安時代	鎌倉時代以降	文献番号
1	1979 ～1981	広域 立会	堆積層	堅穴建物38棟、溝10条、土坑16基 (後期～古墳前期)	堅穴建物3棟、溝1条、土坑4 基(後期)	土坑、柱穴、溝(平安中期～)	土坑、溝、柱穴	1
2	2012	試掘			堅穴建物1棟(前期)			42
3	1995	発掘				掘立柱建物2棟(奈良～平安前期)		21
4	1984	立会			堅穴建物3棟			5
5	1992 ～1993	発掘		堅穴建物4棟(後期)	溝(～古墳)		柱穴	13
6	2007	発掘			堅穴建物3棟(前期)。溝	堅穴建物1棟(奈良後半)		36
7	2012	立会			堅穴建物2棟、土坑			43
8	2006	立会			堅穴建物6棟、柵1条、土坑、柱穴			32
9	2011	発掘			堅穴建物4棟		土坑群	41
10	2013	発掘			堅穴建物(前期8棟、後期3棟)。掘立柱 建物1棟(後期)。土坑	掘立柱建物2棟、土坑(奈良)。 ピット(平安)	土坑	44
11	1994	試掘			土坑、柱穴(飛鳥)			19
12	1990	発掘			堅穴建物(前期13棟、後期3棟)。土坑 群、柱穴群			11
13	2015	立会			堅穴建物1棟(前期)			47
14	2011	立会			堅穴建物1棟(前期)			40
15	2010	立会			堅穴建物3棟。堅穴建物1棟(飛鳥)			39
16	2001	試掘		顕著な遺構なし				28
17	1992	試掘		顕著な遺構なし				15
18	2003	試掘		顕著な遺構なし				30
19	2007	発掘		堅穴建物9棟、土坑7基、柱穴群 (後期～古墳前期)	溝(飛鳥)	包含層(平安)		35
20	1994	試掘			堅穴建物、掘立柱建物、溝、土坑2基			19
21	1995	発掘		堅穴建物4棟、集石遺構2基(終 末期～古墳初頭)	堅穴建物2棟、土坑6基(前期)			20
22	1993	発掘		堅穴建物1棟(後期中頃～後半)。 土坑6基(後期～古墳前期)。堅 穴建物2棟(後期末～古墳初頭)	集石遺構(初頭)。堅穴建物2 棟(前期)	掘立柱建物2棟(平安後期)		17
23	2005	立会			堅穴建物、落込み、柱穴			31
24	2002	立会			堅穴建物1棟(前期)			29
25	1996	立会	土坑(中 期)	堅穴建物、掘立柱建物(末～古墳 初期)				22
26	2016	発掘		顕著な遺構なし				48
27	2006	立会			堅穴建物1棟(後期)			34
28	2010 ～2011	発掘			堅穴建物2棟、掘立柱建物1棟、土坑2 基(飛鳥)			38
29	2011 ～2013	発掘			堅穴建物1棟(後期)	堅穴建物9棟(奈良)。掘立柱建物 39棟、土坑群、溝群(奈良末～)	流路、掘立柱建物	46
30	1991 ～1992	発掘	甕棺墓		堅穴建物6棟(末期～奈良)	掘立柱建物16棟、埋納遺構14基、 柵列、溝	土坑、柱穴	12
31	1990	発掘			溝	溝状遺構(平安中期)	溝、土坑、柱穴	9
32	1992	発掘			溝(前期)。掘立柱建物、柵、土坑、柱穴			14
33	1994	試掘				溝、柱穴群(時期不明)		19
34	1997	発掘				掘立柱建物1棟		23
35	1997	立会			堅穴状遺構、溝状遺構。落込み(飛鳥)	柱穴2基(時期不明)		24
36	1999	立会			堅穴建物2棟(前期)	溝、土坑(平安)		25
37	1990	発掘			堅穴建物9棟、流路1条、土坑2基(前期)	掘立柱建物4棟、柱穴群(平安後期～鎌倉)		10
38	1984	立会			堅穴建物1棟			5
39	1984	試掘			堅穴建物3棟(前期)			6
40	2002	立会			堅穴建物4棟(前期)			29
41	2006	立会			堅穴建物1棟(前期)			33
42	1994	発掘				流路状遺構(～平安)		18
43	2007	発掘				溝、土坑(奈良)。溝、土坑、柱列、 掘立柱建物3棟(平安)		37
44	1982	発掘					道路	2
45	1983	発掘				土坑3基(平安)		3
46	1986	発掘	甕棺墓	柱穴(前期)	落込み(後期)。柱穴(飛鳥)	溝状土坑、柱穴		7
47	2000	発掘		流路(後期～古墳前期)	堅穴建物2棟(前期と中期)			26
48	1984	発掘		堅穴建物2棟(後期)	堅穴建物2棟、土坑(前期)。溝(後期)			4
49	2002	発掘			掘立柱建物2棟、自然流路		土坑、柱穴(室町)	27
50	1993	発掘		流路(～古墳)	堅穴建物3棟(前期)	掘立柱建物(平安)	井戸、土坑、柱穴	16
51	1989	発掘			堅穴建物(前期2棟、後期8棟)		井戸、溝、柱穴群	8
52	2013	発掘			堅穴建物(中期2棟)		土坑(室町)	45

表2 文献一覧表

文献番号	文 献	調査番号
1	「植物園北遺跡」『京都市埋蔵文化財調査概要 昭和55年度』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2011年	1
2	家崎孝治・卜田健司「植物園北遺跡発掘調査概報 昭和57年度」京都市文化観光局 1983年	44
3	久世康博「植物園北遺跡(2)」『昭和57年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1984年	45
4	辻 裕司・木下保明「植物園北遺跡発掘調査概報 昭和59年度」京都市文化観光局 1985年	48
5	「調査一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和59年度』京都市文化観光局 1985年	4・38
6	「調査一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和60年度』京都市文化観光局 1985年	39
7	小森俊寛・原山充志・長戸満男「植物園北遺跡」『昭和61年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1989年	46
8	高 正 龍ほか「植物園北遺跡発掘調査概報 平成元年度」京都市文化観光局 1990年	51
9	長戸満男・小森俊寛「植物園北遺跡2」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1994年	31
10	高橋 潔「植物園北遺跡」『平成2年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1994年	37
11	長谷川行孝『ノートルダム女子大学構内遺跡発掘調査報告—植物園北遺跡—』ノートルダム女子大学 1991年	12
12	久世康博「植物園北遺跡」『平成3年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1995年	30
13	高橋 潔・高 正 龍「植物園北遺跡」『平成4年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1995年	5
14	竹原一彦「植物園北遺跡第11次発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報 第54冊』財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 1993年	32
15	「植物園北遺跡 No.43」『京都市内遺跡試掘調査概報 平成4年度』京都市文化観光局 1993年	17
16	久世康博・津々池惣一「植物園北遺跡1」『平成5年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1996年	50
17	岸岡貴英・長友朋子・杉本厚典「植物園北遺跡第13次発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報 第58冊』財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 1994年	22
18	高橋 潔「植物園北遺跡(第14次調査)」『京都市内遺跡発掘調査概報 平成6年度』京都市文化観光局 1995年	42
19	馬瀬智光「植物園北遺跡 No.63, No.64, No.65」『京都市内遺跡試掘調査概報 平成6年度』京都市文化観光局 1995年	33・20 ・11
20	石尾政信・杉本厚典「植物園北遺跡第16次発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報 第70冊』財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 1996年	21
21	久世康博「植物園北遺跡」『平成7年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1997年	3
22	高橋 潔「植物園北遺跡(96RH224)」『京都市内遺跡立会調査概報 平成8年度』京都市文化市民局 1997年	25
23	百瀬正恒「植物園北遺跡」『平成9年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1999年	34
24	近藤章子「植物園北遺跡(97RH202)」『京都市内遺跡立会調査概報 平成9年度』京都市文化市民局 1998年	35
25	吉本健吾・竜子正彦「植物園北遺跡(99RH18)」『京都市内遺跡立会調査概報 平成11年度』京都市文化市民局 2000年	36
26	近藤章子・菅田 薫「植物園北遺跡」『平成12年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2003年	47
27	鈴木廣司・津々池惣一「植物園北遺跡」京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2002-14 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2002年	49
28	「植物園北遺跡 No.15」『京都市内遺跡試掘調査概報 平成14年度』京都市文化市民局 2003年	16
29	堀内寛昭「植物園北遺跡(02RH51・53)」『京都市内遺跡立会調査報告 平成14年度』京都市文化市民局 2003年	24・40
30	「植物園北遺跡 No.11」『京都市内遺跡試掘調査概報 平成15年度』京都市文化市民局 2004年	18
31	堀内寛昭「植物園北遺跡(05RH276)」『京都市内遺跡立会調査概報 平成17年度』京都市文化市民局 2006年	23
32	吉崎 伸「植物園北遺跡(06RH234)」『京都市内遺跡立会調査報告 平成18年度』京都市文化市民局 2007年	8
33	吉本健吾「植物園北遺跡(06RH253)」『京都市内遺跡立会調査報告 平成18年度』京都市文化市民局 2007年	41
34	吉本健吾「植物園北遺跡(06RH322)」『京都市内遺跡立会調査報告 平成18年度』京都市文化市民局 2007年	27
35	平田 泰「植物園北遺跡」京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2007-1 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2007年	19
36	山本雅和「植物園北遺跡1」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成19年度』京都市文化市民局 2008年	6
37	柏田有香「植物園北遺跡2」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成19年度』京都市文化市民局 2008年	43
38	津々池惣一「植物園北遺跡」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成23年度』京都市文化市民局 2012年	28
39	吉本健吾「植物園北遺跡(10RH291)」『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成22年度』京都市文化市民局 2011年	15
40	吉本健吾「植物園北遺跡(11RH256)」『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成23年度』京都市文化市民局 2012年	14
41	吉崎 伸「植物園北遺跡」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成24年度』京都市文化市民局 2013年	9
42	鈴木久史「植物園北遺跡 No.80」『京都市内遺跡試掘調査報告 平成24年度』京都市文化市民局 2013年	2
43	辻 裕司・田中利津子「植物園北遺跡(12RH260)」『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成24年度』京都市文化市民局 2013年	7
44	柏田有香ほか「植物園北遺跡」京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2012-24 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2013年	10
45	柏田有香「植物園北遺跡」京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2013-4 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2013年	52
46	高野陽子ほか「植物園北遺跡・下鴨半木町遺跡」『京都府遺跡調査報告集 第159冊』公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 2014年	29
47	赤松佳奈「植物園北遺跡(10S134)」『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成27年度』京都市文化市民局 2016年	13
48	李 銀眞「植物園北遺跡」京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2016-5 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2017年	26

3. 遺 構

(1) 基本層序

2区は表土層が0.2m前後、古代以降の耕作土層が0.3m前後あり、調査区東壁の段差や攪乱でその下が地山と確認した。3区は表土層が0.15m前後、古代以降の耕作土層が0.4m前後ある。調査区南壁において3箇所断割調査を行い、地山を確認した。2・3区とも地山上面が遺構面となる。

(2) 遺構の概要

2区の検出遺構は土坑2基、落込み1基である。

3区は京都市保護課調査の1区の南隣にあたり、掘立柱建物1棟や柱穴、土坑2基などを検出した。掘立柱建物は1区で検出した掘立柱建物2の柱穴列が南に展開したものである。なお、1区との遺構番号の重複を避けるため、3区は21から番号を付け、建物番号は1区の番号を踏襲した。

(3) 2区の遺構 (図7)

2区地山は北半が固く締まる層であり、遺構は南半で検出した。検出遺構は少数であり、出土遺物は極めて少量で細片であるため、遺構時期は不明である。しかし、周辺での遺構の状況から、古墳時代の可能性が高い。

土坑2 調査区東部中央で検出した。東西1.9m以上、南北0.8m以上、深さ約0.1mである。北側は攪乱され、東側は調査区外に続く。土器が数点出土したが、細片のため時期は不明である。

土坑4 調査区西部中央で検出した。東西0.35m以上、南北0.6m、深さ約0.2mである。西側は攪乱され、半楕円形である。遺物は出土しなかった。

落込み3 調査区南部中央で検出した。東西3m以上、南北4m以上、深さ約0.2mである。西側は攪乱されている。遺物は出土しなかった。

(4) 3区の遺構 (図8)

3区地山は西半が固く締まる砂礫層であり、遺構は東半で柱穴や土坑を検出した。京都市保護課調査の1区で検出された柱穴列の続きを検出し、そのまともりから掘立柱建物であると判明した。

土坑29 調査区南東部で検出した。径0.25～0.3m、深さ0.15m前後であり、形状は楕円形であ

表3 遺構概要表

時 代	遺 構	備 考
時期不明	2区：土坑2・4、落込み3 3区：土坑30	
古墳時代	3区：掘立柱建物2、土坑29	掘立柱建物の時期は古墳時代前期から中期初頭

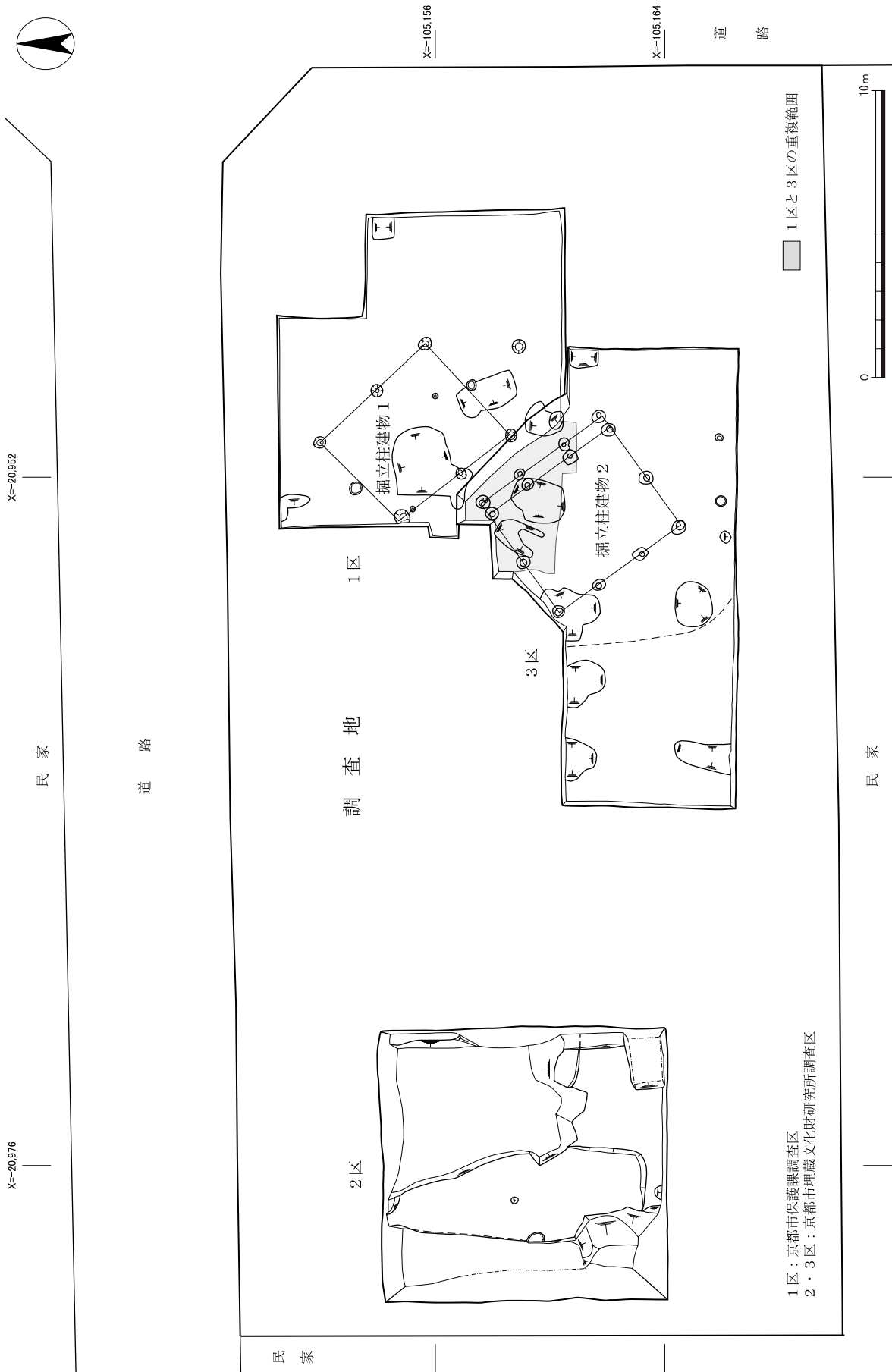


図6 遺構全体平面図 (1 : 200)

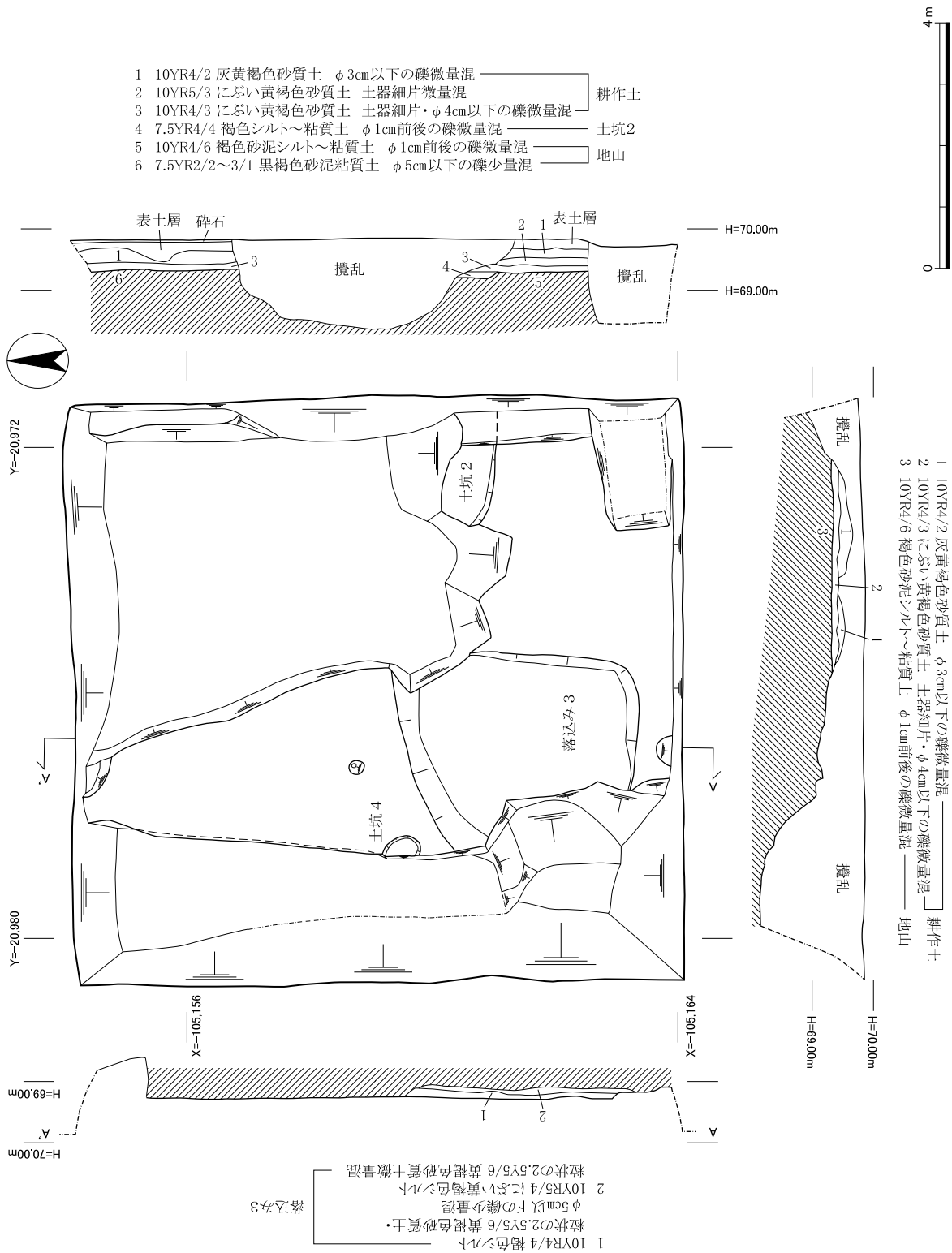


図7 2区実測図 (1 : 100)

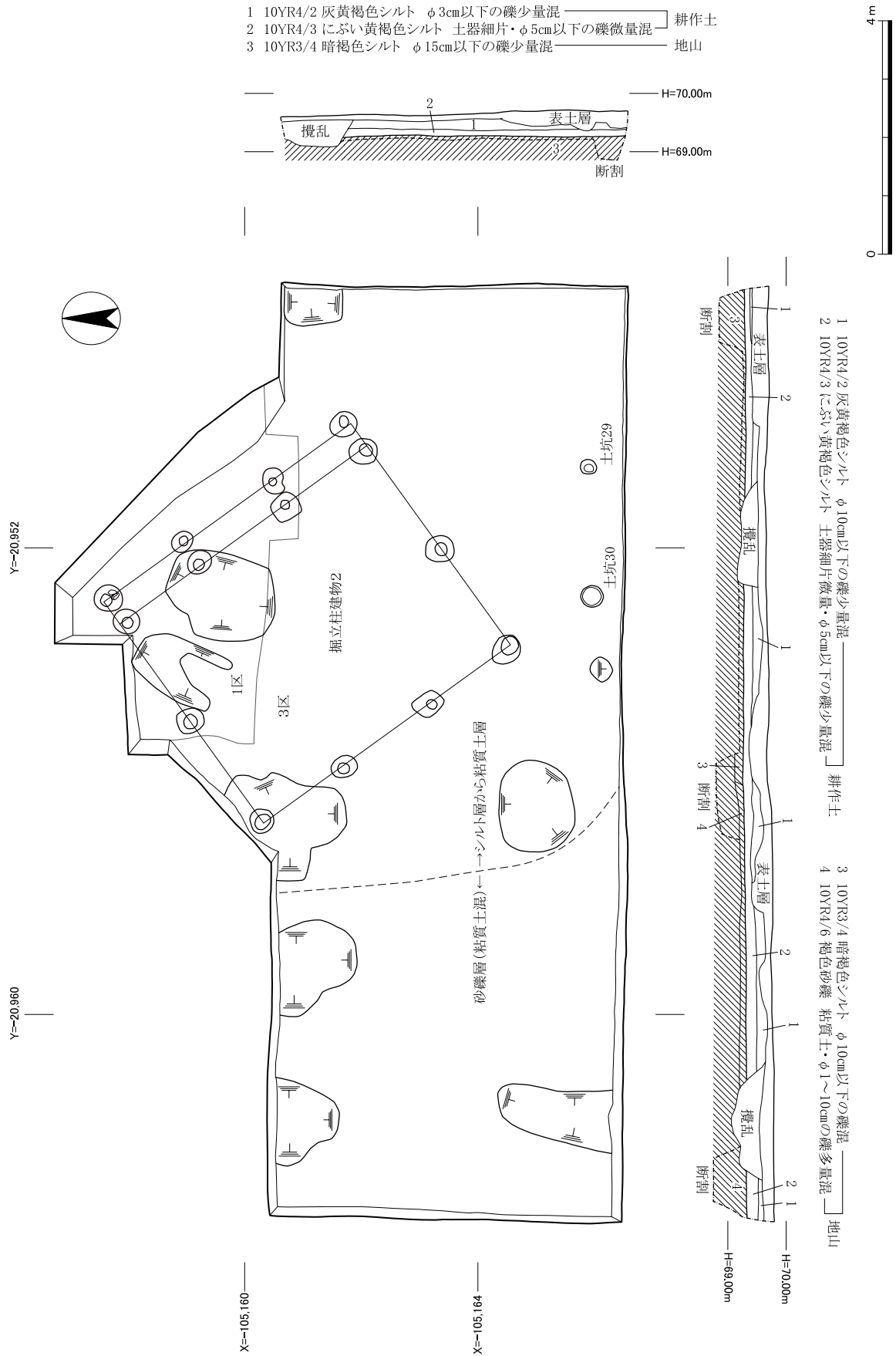


図8 3区実測図 (1:100)

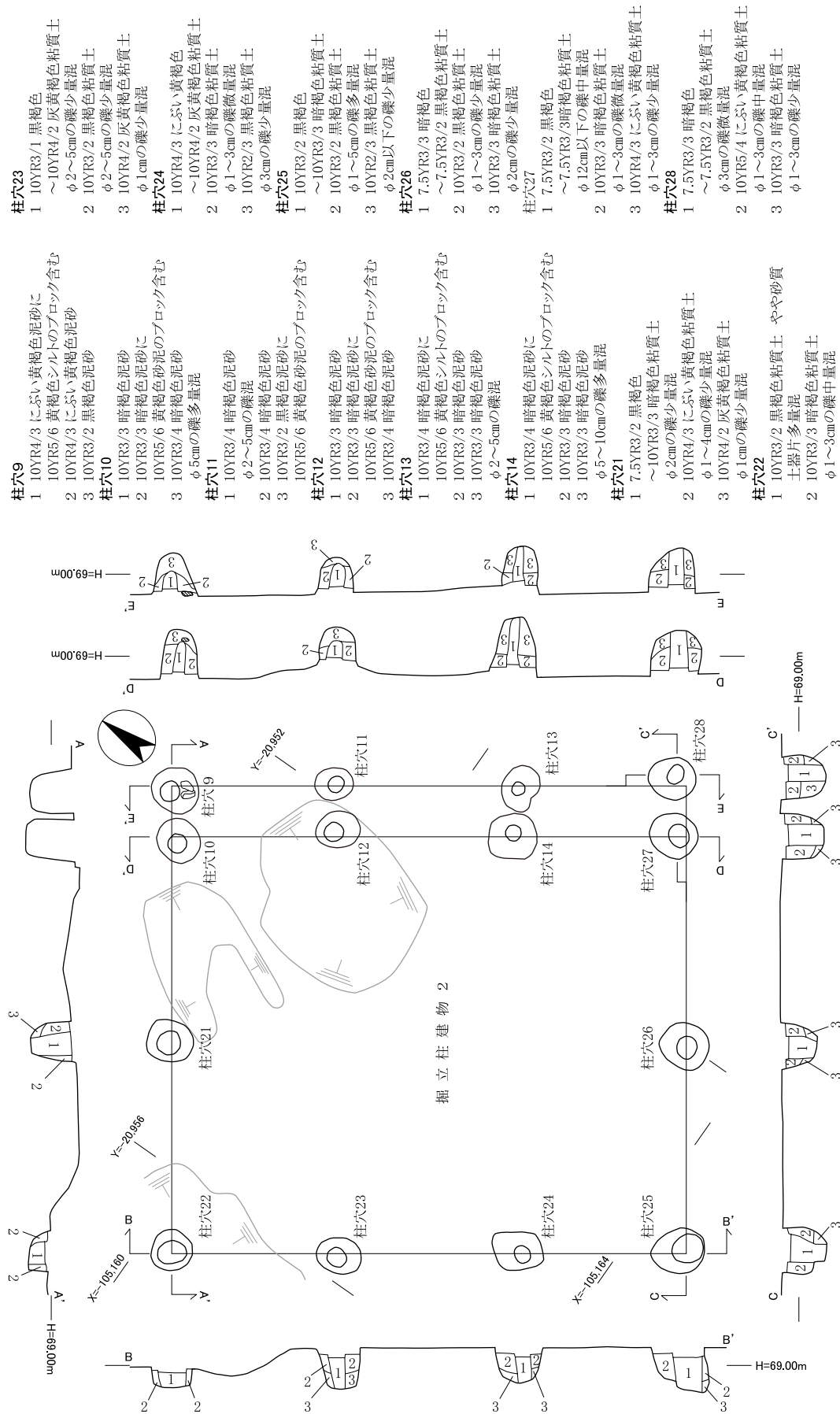


図9 掘立柱建物2実測図(1:60)

- 柱穴23**
- 1 10YR3/1 黒褐色
～10YR4/2 灰黄褐色粘質土
φ2～5cmの礫少量混
 - 2 10YR3/2 黒褐色粘質土
φ2～5cmの礫少量混
 - 3 10YR4/2 灰黄褐色粘質土
φ1cmの礫少量混

- 柱穴24**
- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色
～10YR4/2 灰黄褐色粘質土
φ1～3cmの礫微量混
 - 2 10YR3/3 暗褐色粘質土
φ1～3cmの礫微量混
 - 3 10YR2/3 黒褐色粘質土
φ3cmの礫少量混

- 柱穴25**
- 1 10YR3/2 黒褐色
～10YR3/3 暗褐色粘質土
φ1～5cmの礫少量混
 - 2 10YR3/2 黒褐色粘質土
φ1～5cmの礫少量混
 - 3 10YR2/3 黒褐色粘質土
φ2cm以下の礫少量混

- 柱穴26**
- 1 7.5YR3/3 暗褐色
～7.5YR3/2 黒褐色粘質土
φ1～3cmの礫少量混
 - 2 10YR3/2 黒褐色粘質土
φ1～3cmの礫少量混
 - 3 10YR3/3 暗褐色粘質土
φ2cmの礫少量混

- 柱穴27**
- 1 7.5YR3/2 黒褐色
～7.5YR3/3 暗褐色粘質土
φ12cm以下の礫中量混
 - 2 10YR3/3 暗褐色粘質土
φ1～3cmの礫微量混
 - 3 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土
φ1～3cmの礫少量混

- 柱穴28**
- 1 7.5YR3/3 暗褐色
～7.5YR3/2 黒褐色粘質土
φ3cmの礫微量混
 - 2 10YR5/4 にぶい黄褐色粘質土
φ1～3cmの礫中量混
 - 3 10YR3/3 暗褐色粘質土
φ1～3cmの礫少量混

- 柱穴9**
- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色泥砂に
10YR5/6 黄褐色シルトのブロック含む
 - 2 10YR4/3 にぶい黄褐色泥砂
 - 3 10YR3/2 黒褐色泥砂

- 柱穴10**
- 1 10YR3/3 暗褐色泥砂
 - 2 10YR3/3 暗褐色泥砂に
10YR5/6 黄褐色砂泥のブロック含む
 - 3 10YR3/4 暗褐色泥砂
φ5cmの礫少量混

- 柱穴11**
- 1 10YR3/4 暗褐色泥砂
φ2～5cmの礫混
 - 2 10YR3/4 暗褐色泥砂
 - 3 10YR3/2 黒褐色泥砂に
10YR5/6 黄褐色砂泥のブロック含む

- 柱穴12**
- 1 10YR3/3 暗褐色泥砂
 - 2 10YR3/3 暗褐色泥砂に
10YR5/6 黄褐色砂泥のブロック含む
 - 3 10YR3/4 暗褐色泥砂

- 柱穴13**
- 1 10YR3/4 暗褐色泥砂に
10YR5/6 黄褐色シルトのブロック含む
 - 2 10YR3/3 暗褐色泥砂
 - 3 10YR3/3 暗褐色泥砂
φ2～5cmの礫混

- 柱穴14**
- 1 10YR3/4 暗褐色泥砂に
10YR5/6 黄褐色シルトのブロック含む
 - 2 10YR3/3 暗褐色泥砂
 - 3 10YR3/3 暗褐色泥砂
φ5～10cmの礫少量混

- 柱穴21**
- 1 7.5YR3/2 黒褐色
～10YR3/3 暗褐色粘質土
φ2cmの礫少量混
 - 2 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土
φ1～4cmの礫少量混
 - 3 10YR4/2 灰黄褐色粘質土
φ1cmの礫少量混

- 柱穴22**
- 1 10YR3/2 黒褐色粘質土 やや砂質
土礫片少量混
 - 2 10YR3/3 暗褐色粘質土
φ1～3cmの礫中量混

る。遺物は出土しなかった。埋土は掘立柱建物2の埋土と類似する。時期は埋土の状態と検出状況から古墳時代と考える。

土坑30 調査区南部中央で検出した。径約0.5m、深さ0.15m前後であり、形状は円形である。遺物は出土しなかった。埋土には耕作土由来の土が混じる。時期は不明である。

掘立柱建物2（図9、図版2） 調査区北部で検出した。建物の北東部は京都市保護課調査の1区で検出した部分である。建物主軸方位は北に対して西へ約35度傾く。規模は身舎が桁行3間・梁行2間で、東側に縁と想定できる1間が付く。

身舎の柱間は東列柱間が北から1.7m・1.8m・1.6m、西列柱間が北から1.6m・1.8m・1.7mである。北列の柱間は西から2.1m・2.0m、南列柱間は西から2.1m・2.1mである。縁は幅約0.5m、柱間は北から1.6m・1.8m・1.6mである。

検出面での各柱穴の形状は大半が楕円形である。規模は、短径0.4m前後、長径0.5m前後、深さは検出面より0.35～0.6mである。柱跡の径は0.15～0.25mである。

出土遺物は建物西隅の柱穴22から布留式土器の甕口縁部などが出土した。これら出土遺物から掘立柱建物2の時期は古墳時代前期から中期初頭と比定できる。

4. 遺物

(1) 遺物の概要

検出遺構が少なく、出土した遺物は少量で細片が多い。遺物の時期は弥生時代から室町時代までである。出土した遺物は、掘立柱建物2の柱穴からのものがほとんどである。布留式土器が大半を占め、細片である。その他に石鏃1点がある。

(2) 土器類 (図10)

掘立柱建物2の柱穴21・22・24から布留式土器が出土した。ほとんどが柱穴22からのものである。出土土器は細片で、60点前後である。細片・小片であるため、図示はほとんどできなかったが、その中の1点を図示した。

1は布留式土器甕の口縁部である。内湾して立ち上がり、端部は内側に肥厚し丸味を帯びる。

(3) 石製品 (図10・11)

2は石鏃である。基部の片側を欠損する。長さ3.1cm、復元幅1.8cmで、石材はサヌカイトである。掘立柱建物2の柱穴26から出土した。

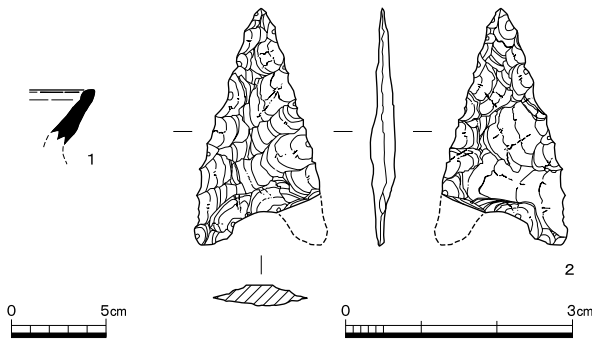


図10 掘立柱建物2出土遺物実測図 (1:4、1:1)



図11 石鏃

表4 遺物概要表

時代	内容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
弥生時代	石鏃		石鏃1点		
古墳時代	布留式土器		布留式土器1点		
平安時代 ～室町時代	土師器、須恵器、輸入白磁、 焼締陶器				
合計		2箱	2点(1箱)	1箱	0箱

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、Aランクの遺物を抽出したため、出土時より1箱多くなっている。

5. まとめ

今回3区で、京都市保護課が検出した1区南西隅の柱穴列を含んで構成される掘立柱建物2を検出した。この掘立柱建物は建物主軸方位が北に対して西へ約35度傾き、身舎は梁行2間・桁行3間、東側には縁と想定される幅の狭い1間が付く特異な建物である。建物の時期は柱穴から出土した布留式土器から古墳時代前期から中期初頭と考えられる。

掘立柱建物2は、1区で検出した掘立柱建物1と身舎の規模がほぼ同じあり、建物の方位も概ね同じである。また、隣接して並行している。これらのことから、これら掘立柱建物2棟は同時期と想定できる。周辺の調査で検出している古墳時代の竪穴建物なども同様の北西傾きであり、これらの建物は、古墳時代に調査地一帯に広がっていた集落の一部と考えられる。

植物園北遺跡の北西部では、掘立柱建物が4棟確認されているが、南東部では少ない。これが何に起因するのかは、今後の課題である。



図12 周辺検出遺構図 (1 : 2,500)

圖 版



1 2区全景（東から）



2 3区全景（西から）



1 掘立柱建物2全景（南西から）



2 掘立柱建物2 柱穴22土器出土状況（北から）



3 掘立柱建物2 柱穴26断面（南東から）

報 告 書 抄 録

ふりがな	しょくぶつえんきたいせき							
書名	植物園北遺跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告							
シリーズ番号	2018-11							
編著者名	布川豊治							
編集機関	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2019年5月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しょくぶつえんきたいせき 植物園北遺跡	きょうとしさきょうく 京都市左京区 しももみなみしげちょう 下鴨南芝町 30-1・2	26100	146	35度 00分 05秒	135度 07分 07秒	2018年11月 5日～2018 年12月7日	約197㎡	共同住宅 新築工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
植物園北遺跡	集落跡	弥生時代			石鏃		古墳時代前期から 中期初頭の掘立柱 建物1棟を検出し た。	
		古墳時代	掘立柱建物、土坑		布留式土器			

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2018-11

植物園北遺跡

発行日 2019年5月31日

編集
発行 公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
〒602-8435 TEL 075-415-0521
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地
〒604-0093 TEL 075-256-0961